



独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center 第96号

発行日 令和5年9月
発行人 新木 一弘
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp>

基本理念 東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。



副薬剤部長 吉川 至

新心臓血管外科医長挨拶

心臓血管外科医長 吉武 秀一郎



2023年6月より心臓血管外科医長を拝命致しました吉武秀一郎と申します。昨年4月に副医長として異動して参りました。佐賀大学の関連病院にて研鑽後、慶應義塾大学 心臓血管外科および当院よりお声をかけて頂きました。

東京医療センターは主に目黒区、世田谷区という広い医療圏に位置しております。救急科も充実しており新型コロナ診療においても都内有数の患者受け入れを行い、また当科として東京都急性大動脈スーパーネットワークの数少ない重点施設に指定されております。近年の高齢化に伴う合併疾患の増加や手術リスク上昇の中でも手術成績は向上しています。これは全診療科を有する当院において質の高いチーム編成を行い、最先端医療をテーラーメイドに提供し、かつ複合的な合併疾患へ他科と共同加療を行うことが出来るからです。

この度、当科外来（火・金曜日）に虚血・弁膜症・大血管と領域別に専門外来を新設致しました。胸痛、心雑音、レントゲン・CT・エコーなどで心臓や血管の異常所見など御座いましたら精査御依頼頂ければ幸いです。

今後この地域で完結できる最善の治療を提供できる様、これまでの経験を活かし尽力いたします。関連のクリニックや病院の先生方には今後も何卒宜しくお願い申し上げます。お急ぎの際や直接のご用命には下記にご連絡ください。

<連絡先>

心臓血管外科直通電話：080-8040-8131
メール：215-komazawa.heart@mail.hosp.go.jp
地域連携室：03-3411-2595



東京医療センターだよりは
QRコードからもご覧になれます



診療科紹介 ～総合内科～

総合内科科長 鄭 東孝

国立病院機構東京医療センターは1942年9月の旧海軍軍医学校付属第二病院、海軍第一療品廠並びに財団法人東京海仁会病院の設立に遡ります。1945年12月旧厚生省への移管に伴い国立東京第二病院となり、1968年7月には臨床研修指定病院に指定され、研修病院としても長い歴史を持っています。当院総合内科（総合診療科）は、1986年に専任スタッフ2名で発足し、1990年4月から総合診療科後期研修医（レジデント）一期生の採用を開始しました。以来、30数年にわたり、臓器別診療とは異なる「総合的」な医療を実践し、数多くのレジデントを育成してきました。総合診療科後期研修にはこれまで130名を超える医師がエントリーし、修了生の多くは、第一線の診療所、地域の中核病院、総合診療と密接に関連する医学教育、社会医学など様々な分野で活躍し、近年は教授に就任する卒業生も複数出てきました。診療実績では、年間約17,000人の外来患者、1,600人前後の入院患者を担当し、国内では最大規模かつ歴史ある診療部門として認知されています。一般的な内科疾患であれば、侵襲的・専門的治療を必要としない限り引き続き担当し、高齢の患者さんで多い複数の疾病を持った方の包括的な診療で特に力を発揮しています。また総合内科の入院患者さんは緊急入院が全体の約90%を占め、地域の急性期医療ニーズに応えるべく努力



しています。これまで各学会が担ってきた日本の専門医制度は、2014年に発足した日本専門医機構が統轄することとなり、2018年からは機構による新制度で専門医養成が始まりました。新専門医制度において総合診療も19番目の領域として専門性が規定されることになりましたが、総合診療の特性を一言で表すと「93歳の心不全を治療する」ではなく「93歳の心不全を持った方を元気にする」となるでしょうか。疾患だけを診るのではなく、患者さんを包括的に診るための技術に優れた存在が総合診療医と言えます。東京医療センター総合内科は黎明期から総合診療を考え続け部門を運営してきました。今後も目の前の患者さんに役立つよう日々診療業務に邁進していきますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。



七夕祭り

庶務係長 飯田 雅俊

東京医療センターでは毎年、七夕が近くなると外来ロビーに笹と短冊を設置しています。今年も6月23日（金）～7月7日（金）までの間、東京医療センターと東京医療保健大学の学生が共同して、七夕飾りを設置しました。入院患者さん・外来患者さん・病院を訪れる多くの方が短冊に願いを込めて書いている姿が見受けられ、約1,000枚の短冊が飾られました。

短冊の内容は「病気が治りますように」、「手術が成功しますように」などご自身又はご家族の健康に関する願い事や世界平和を願うもの、東京医療センターに

働く医療従事者に向けた感謝の言葉などが書かれておりました。また、小さい子供たちが書いたように見えるイラストが多く見られました。3本用意した大きめの笹には短冊であふれており、計画・準備をした者としては嬉しく、毎年続けていきたいと改めて思いました。短冊には患者さんご自身の願いや、家族・友人の健康や幸せを願うものなど、様々な願いが込められており、集めた短冊は、その願いが叶うよう願いを込めて近くの神社に奉納させていただきました。



本部機能の院内災害訓練について

庶務班長 上後 剛範

今年度の院内災害訓練については、令和5年10月12日（木）に実施することが決定しております。しかしながら、昨年度の訓練において、災害対策本部が十分に機能していなかったという反省があったことから、今年度は院内災害訓練に先駆けて7月13日（木）に本部機能に特化した災害訓練を実施しました。訓練参加者は院長先生をはじめとした幹部職員や災害発生時に災害対策本部に配置される職員、災害対策室メンバーにて行いました。

訓練当日は13：30に目黒区・世田谷区震度6強、東

京23区停電、目黒区断水という被害想定で訓練を開始し、参加者は、普段使い慣れていないICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を駆使しながら、職員の安否確認や院内の被害状況を確認・報告したのち、院内の災害レベルを3bと決定しました。訓練終了後には振り返りの時間を設け、災害対策本部の役割や行動を再認識しました。

10月に行う院内災害訓練では今回の訓練内容を活かし、円滑かつ充実した訓練を行うよう努めてまいります。



ICTを駆使した情報収集



被害状況等をホワイトボードへ記載

通院治療センターの紹介

通院治療センター 看護師長 武田 文月

東京医療センターは、地域がん診療連携拠点病院に認定されており、現在は、病棟3階にて4人床5部屋=20床に加え、有料個室6床が増床（現在4床のみ運用）で治療を行っております。

通院治療センターで抗がん剤治療等を受ける方々は、すでに入院し初回治療を経験された方、初回から通院で治療を受けられる方、ご自身でCVポートの管理方法を覚えなくてはならない方など治療内容も様々です。患者の皆さまが、副作用を経験する場合は自宅であり、日常生活の場であることを常に考えて、ケアを提供する必要があると考えております。抗がん剤の副作用の管理も併せて行っており、適応する患者さんに対して、『PAXMAN』という医療機器を頭部に装着して冷却し脱毛防止を図る、グローブ装着し末梢神経

障害予防を図る（手足のしびれ感予防）など対応しています。外来化学療法の件数、頭皮冷却療法件数は年々増加しています。また、患者さんから得られた情報（お困りごと等）により、必要な患者さんに対しては、同じフロア内にある、がん診療連携外来やがん看護外来、お薬相談外来等へ医師や薬剤師など、多職種のスタッフと相談・連携をとり、対応させていただいております。生活背景や職業、困りごと等の情報を限られた時間内に、有効に収集できるようなコミュニケーションスキルをみにつけ、短時間の外来治療であっても、患者さんの小さな変化に気が付ける観察力を持ち、患者の皆さまが安心して通院治療を受けられるように、スタッフ一同努めて参りたいと思います。



受付カウンター

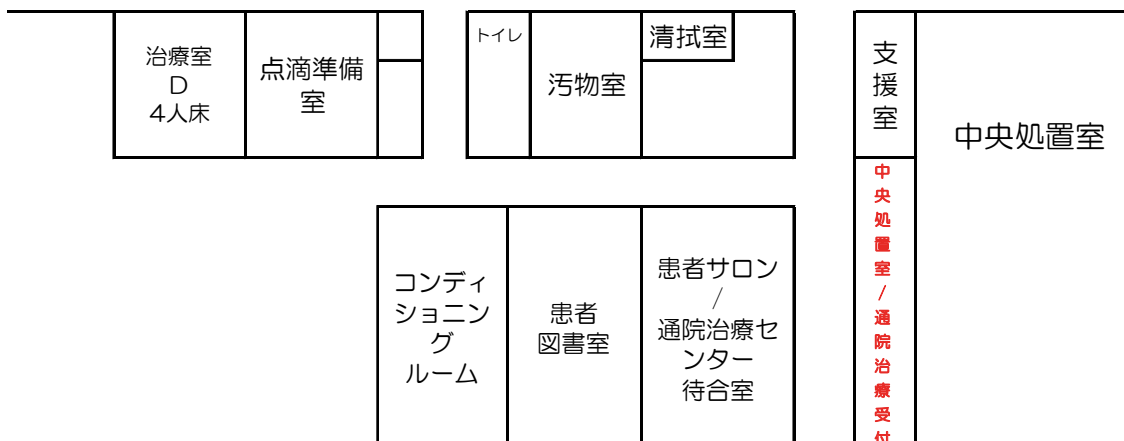


スタッフ；医師/薬剤師

看護師/クラーク

がん治療センター配置図

診察室 1	診察室 2	治療室 E 4人床	治療室 A 4人床	治療室 B 4人床	治療室 C 4人床	治療室 1 個室	治療室 2 個室	治療室 3 個室	治療室 5 個室	治療室 6 個室	治療室 7 個室	診察室 3	診察室 5
-------	-------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------	-------



高校生の看護体験

教育担当看護師長 近野 美穂

8月9日、東京都看護協会；東京都ナースプラザ主催による「令和5年度1日看護体験学習」を開催しました。コロナ禍により、当院ではしばらく開催ができていませんでしたが、今回4年ぶりで開催することができました。今年度は9名の高校生にご参加いただきました。この体験学習は、看護への関心と理解を深めていただくとともに、今後の進路選択の参考としていただくために実施しています。

各病棟での看護体験では、看護師の仕事の様子を見てもらい、血圧測定、清拭などの看護ケア、車椅子介助などを看護師と一緒に実際に体験していただきました。白衣を着て、病棟で真剣にケアを行う姿は新人看護師さながらでした。病棟での体験を通して、看護師の仕事をイメージしていただけただけようでした。

看護体験後の懇談会では、参加者と病棟看護師とで、今回看護体験に参加した動機や看護体験の感想などを語り合いました。参加者の皆さんからも積極的に沢山のご質問をいただきました。質問を受けて当院看護師より、「看護師として働いていて感じていること、うれしかったこと、大変だったこと、大事にしていること」などを、具体的なエピソードや経験などを交えて話してもらいま

した。参加者の皆さんからは、「看護師の患者さんへの配慮やコミュニケーションがすごいと思った」「初めて見ることでとても貴重な体験ができた」「参加してよかった」といった感想をいただきました。

当院を選んでいただいた理由としては、「近所の病院で興味があった」「身内が入院したことがあった」…などがありました。短い時間でしたが、多くのことを学び、感じ取っていただき、私たちが身の引き締まる思いとともに、とても励まされました。看護職を目指している方も多くおられましたが、今回の体験学習が参加者の皆さんの将来の選択の参考となり、看護職を目指す気持ちを少しでも応援できたのならうれしく思います。

<1日看護体験学習の内容>

- ◆当院の施設概要の説明
- ◆白衣を着用しての記念写真撮影
- ◆病棟での看護体験（2A、3A、5A、5B、9A）
 - ・体温、脈拍、呼吸数、血圧測定
 - ・車椅子介助、ストレッチャー移送
 - ・洗髪、手浴、足浴、清拭介助等
- ◆病棟看護師との懇談会



みんなが知りたい病気シリーズ ～大動脈解離～

心臓血管外科科長 大迫 茂登彦

大動脈解離 どのような病気？

大動脈疾患のうちで、大動脈瘤と二分し、生死に関わる重篤な病気といえます。

発症数は10万人に約3人（東京都の急性大動脈スーパーネットワークのデータでは10人）と言われており、多くは正常といえる大動脈がある日突然発症します。天地がひっくり返ったような事態に陥るといっても過言ではないでしょう。一旦発症すると様々な症状を伴います。多くは血管壁の急激な破綻による疼痛（持続性、これまでに経験したことのない痛み）、血流障害に伴う臓器障害、失神、四肢虚血や、切迫破裂（血液漏出）や破裂による心タンポナーデ、出血性ショックにより死に至ります。これらは一瞬で起こり、短時間のうちに進行します。時間とともに死亡リスクが増加するため（1時間あたり1%ずつ増加すると言われていいます）、可及的速やかに、しかるべき医療機関で治療を受けることが必要です（図1：a病態 b分類）。

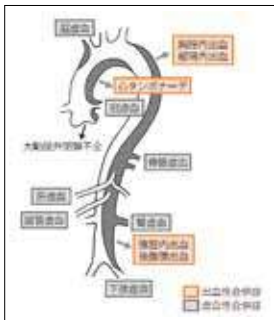


図1-a. 大動脈解離の病態

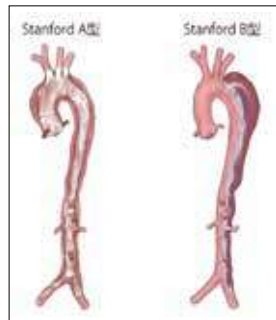


図1-b. 大動脈解離の分類

診断 どうする？

大動脈壁は3層構造できており、突然の内膜亀裂（エントリー）により中膜層内で解離を起こします。管腔構造が本来の内腔である真腔と偽腔の二腔（もしくは三腔）構造となることで、血流障害や破裂に伴う様々な病態を呈することになります。典型的な病歴や四肢血圧差、エコーによる血管内フラップの確認など、ベッドサイドである程度予測する事はできますが、確定診断には造影CT検査で内部構造を評価する事が必要です（図2：急性大動脈解離の診断・治療カスケード）。



図2. 急性大動脈解離の診断・治療カスケード

治療 どうする？

偽腔の血栓化、偽腔径や大動脈径により治療の緊急度が異なり、治療も外科的治療もしくは内科（保存的）治療が推奨となる場合があります（図3：Stanford A型大動脈解離の治療の推奨とエビデンスレベル）。

	推奨クラス	エビデンスレベル
偽腔開存型の症例には緊急外科手術を行う 68, 1047, 1048	I	B
偽腔閉塞型の症例には緊急外科手術を考慮する 1049-1053	IIa	C
偽腔閉塞型の症例には内科治療を考慮する 1031, 1054-1056	IIa	C

表1. Stanford A型大動脈解離の治療の推奨とエビデンスレベル

外科的治療は、血管壁が破裂を来す前に、また主要臓器に不可逆的障害が及ぶ前に、構造修復を行い、血流改善を図る事が肝要です。基本はエントリー部分の人工血管置換術を行います。人工心肺装置を使用し、低体温、心停止、循環停止といった高度の侵襲的手術となりますが、エンドバスキュラー治療を組み合わせることで、低侵襲化を図るよう努めています。

治療成績は、急性大動脈解離の手術死亡率は9.6%（学会データベース）で、過去30%と言われていた時代からかなり改善されていて、診療技術だけでなく救急医療体制の改善もその大きな要因です。東京都では急性大動脈スーパーネットワーク（CCUネットワーク）により重点病院 / 支援病院（当院は重点病院です）による救急搬送の受け入れを充実させ、発症から治療までにかかる時間短縮、病院へ効率的搬送に努めており、更なる成績向上が期待できると思います。

治療後の日常生活、予防 どうする？

外科的修復を行うことで修復部分以外の構造破壊も改善が得られる場合が少なくありません。また内科治療でも改善される場合があります。一定の安静・入院加療期間を経たのち、病気を理解し予防に努めることで、解離血管が残存し構造破壊の状態であっても、病態が安定し社会復帰することが可能となります。解離を起こす原因はまだ不明のところも多いですが、誘因の多くは高血圧、若しくは血圧の大きな変動といわれています。まずは血圧を正しく管理し、安定化させ、その環境を継続する事が肝要です。食生活、生活習慣を見直し、よい環境づくりによるヘルスケアを心がけてもらえると良いと思います。またそのような血圧や動脈硬化に関わる危険因子をお持ちの方についてのご相談は当科へ診療依頼をいただければと思います。お急ぎの際には心臓血管外科直通電話 080-8040-8131、若しくは地域連携；03-3411-2595、メール：215-komazawa.heart@mail.hosp.go.jpにご連絡ください。参考資料：大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン（2020年改訂版）、大迫茂登彦、他：図説シリーズ「心血管疾患の最新治療法」、大動脈疾患 外科治療のスタンダードと新しいテクノロジー、医療2018；72：424-430

目黒区長から感謝状を頂きました

管理課長 渡邊 孝

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に変更されたことを一つの区切りとして、5月22日（月）に青木目黒区長が来院され、長きにわたり新型コロナウイルス感染症対策に尽力し、目黒区の地域医療の確保と区民の健康の保持増進に貢献されたとして感謝状を頂きました。

感謝状贈呈に当たり区長より「長きにわたる皆さまの多大なるご尽力に対して、深く感謝を申し上げます」と感謝のお言葉を頂きました。

当院としては今後も目黒区からの要請があれば積極的に協力していくことといたします。



左から樺山副院長、新木院長、青木目黒区長、木下副院長



ご寄付への御礼

独立行政法人国立病院機構東京医療センターにご寄付頂きましたこと、心よりお礼申し上げます。

この度の寄附及び物品等については、感染症を含めた感染対策や、職員（医師・看護師など医療従事者）の勤務環境改善、教育研修の充実、療養環境改善のほか、地域医療の充実に役立たせていただきます。

今後とも、関係機関と密接な連携を図り、地域で選ばれる病院になるべく、日々努力してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構
東京医療センター
院長 新木 一 弘

令和4年11月～令和5年7月までにご寄付をいただいた皆様のご紹介

【患者さん、ご家族等】

滝口 様（広島市） 秋山 様（世田谷区） 青木 様（名古屋市）
高橋 様（大田区）

【企業及び団体等】

中外製薬（株）	マルホ（株）	協和キリン（株）
旭化成ファーマ（株）	参天製薬（株）	第一三共（株）
医療法人社団敬和慶友会	持田製薬（株）	あすか製薬（株）
エーザイ（株）	（株）エム・ディ・エム	サンファーマ（株）
杏林製薬（株）	大鵬薬品工業（株）	日本コクレア（株）
公益財団法人上原記念生命科学財団	医療法人報徳会宇都宮病院	

患者図書室からのお知らせ

～新着図書のご案内～

患者さん向けの本をご用意しています

患者図書室でお選びになった本は、がん治療センター内（病棟3階Bフロア）でしたら、ご自由にお持ちいただけます。読み終わりました本は、返却BOX（図書室・受付前待合に設置）へお願いします。診察の待ち時間などに、是非ご利用ください。

利用案内

- ・開室日：月～金曜日（平日）
 - ・開室時間：
 - 9時～13時（外来ご利用の方）
 - 13時～15時（入院中の方/司書在室）
 - ・蔵書数：約1,200冊
 - ・利用者用パソコンは、情報検索や蔵書の確認、図書室内のDVD視聴等にご利用いただけます。
 - ・コロナ禍の感染防止のため、ご利用を制限して開室しています。
- ※詳細は、患者図書室ホームページでご案内しております。



▼2023年度の新着図書（一部）

『マンガで学ぶ! がんのキホン』		『事例に学ぶ AYA 世代のがん』		『ACP と切っても切れないお金の話』	
	医学書院 2023年 Fe:がん:10905		診断と治療社 2022年 Fe:がん:10908		日経 BP 2022年 J: 医療:10911
知っておきたいがんの基本知識を60のトピックスにまとめ、マンガや図表とともにわかりやすく学べる一冊。		サポートケア・緩和ケア・妊孕性の温存、家族への支援、治療と学業・就労の両立支援など、AYA世代に特徴的な問題への対応をまとめた一冊。		アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の実践の中で直面しやすい経済的な課題と、その課題への対応に役立つ制度について分かりやすく解説。	

～企画展示「治療と仕事の両立」のご案内～

“働きながら治す 治しながら働く”

今年「治療と仕事の両立」をテーマに、資料の探し方や東京医療センターの相談支援センターなどをご紹介します。

外来ホール、病棟3階Bフロア待合および患者図書室にて関連した資料や情報のご案内、目黒区立図書館所蔵資料の紹介、自由にご参加いただけるウィッシュツリーなどを企画しております。

この展示を通して「治療と仕事の両立」について理解を深めるきっかけになれば幸いです。

ぜひ、お立ち寄りください。

展示期間：

10月10日（火）～12月22日（金）



地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長 鄭 東孝 地域医療連携係長 清水 裕子

平素より、東京医療センターの診療に対し、ご支援並びにご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、Web形式で行っていましたが地域医療カンファレンスを対面で開催いたしましたので、ご報告させていただきます。

【第147回 地域医療カンファレンス】

■日程 2023年6月29日（木）

■演題 『超音波で臍をみる—もれなく臍をみるための方法とコツ—』

■演者 生理検査室 水口安則先生

（前国立がん研究センター中央病院 放射線診断科医長）

■参加者 36名

当日は、会場に超音波の機器を持ち込み、臍臓の見方を実演を交えながらお話しいただきました。参加いただいた先生方にも実際に超音波のプロブを操作していただき、活発な質疑応答もありました。

今後も新型コロナウイルス感染症の流行状況に注意しつつ、地域医療カンファレンスを計画していきたいと考えております。演題の内容についてリクエストがありましたら是非お知らせください。



【次回148回地域医療カンファレンスのお知らせ】

■日程 2023年9月21日（木）

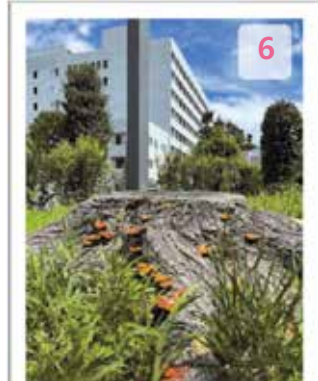
■演題 『症例から学ぶ耳鼻科関連診療ガイドライン』

■演者 「症例から学ぶ顔面神経診療ガイドライン」 耳鼻咽喉科医師 都築伸佳

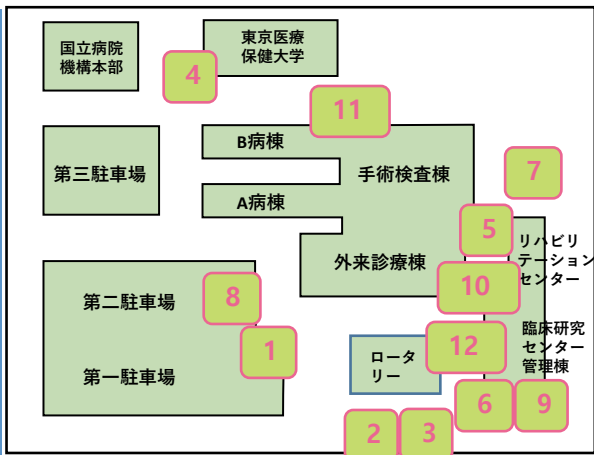
「症例から学ぶめまい診療ガイドライン」 耳鼻咽喉科医師 山野邊義晴

東京医療センターで見られる花々

副診療放射線技師長 福原 かおる



自由通り



駒沢通り

今回、ご紹介させていただいたのは、東京医療センターの敷地内に春から夏にかけて咲いていた花々です。春の季節には、桜がそこかしこに咲き誇り、病院の敷地のどこを歩いても桜を愛でることができます。春から夏にかけての花だけではなく、秋になると正面玄関の前は毎年みごとに色づきます。東京医療センターは四季折々の顔を見せてくれます。

- 1.クチナシ 2.つつじ 3.小手毬 4.ゼラニウム
- 5.金柑属 6.きのこ 7.桜 8.沈丁花
- 9.ヒメツルソバ 10.桜 11.あじさい 12.桜



📷 フォトコーナー



登録医紹介



院長あいさつ

世田谷区桜新町にて『胃腸と肛門』を専門とした診療を行っております。

内視鏡におきましては、不安や恐怖心を持つ患者さまが数多くいらっしゃいます。また、おしりの悩みは多くの患者さまが持っているにもかかわらず、恥ずかしさから受診をためらうケースが数多く見受けられます。

当院は、内視鏡検査に不安をお持ちの方やおしりのことで悩んでいる方に安心してご来院いただけるクリニックを目指



院長
北山 大祐

しております。常に最高水準の医療を提供するように努めて参ります。

定期的に受けることが苦痛にならない快適な内視鏡検査をそして、少しでも恥ずかしさが和らぐような肛門診療を実現していく所存です。

女性医師も在籍しております。お気軽にご相談ください。

診療科・医院案内

内視鏡内科・肛門外科・胃腸内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	/	●	●	●	▲	■
15:00~18:00	●	/	●	●	●	-	-

休診日：火曜・祝日

▲：土曜 第1・3週のみ ■：日曜 第2週のみ

-：内視鏡検査のみ

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-2-14

TEL：03-6413-1642



院長あいさつ

2022年6月に祐天寺の駅前にて開業を致しました。日帰り白内障手術を中心として、眼科一般の診療を行っております。目黒区の検診も可能です。

当院の特徴としましては目黒区で唯一、術中波面収差解析装置（ORAシステム・Alcon社）を採用しているところです。（2023年8月現在）。こちらの機械は手術中に再度屈折度を計算し、術後の焦点のズレを少なくする機械で、術後裸眼視力の向上に寄与します。多焦点レンズの取り扱いもご



院長
田口 万蔵

ざいます。顕微鏡はライカ社の最上位モデルのProveo8を採用しており、硝子体手術も可能です。

日曜日に日帰りで白内障手術をすることも可能で、お仕事等への負担を最小限にできる様、努力しております。

患者様主体で誠心誠意診療に当たらせて頂きます。お気軽にご相談下さい。

診療科・医院案内

眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:45	●	●	-	●	●	-	●
15:00~17:45	●	●	-	▲	●	-	▲

休診日：水曜、土曜、祝日

▲ 日曜日及び木曜日午後は手術のため外来診療は休診

〒153-0052 東京都目黒区祐天寺1丁目23-20

祐天寺駅前メディカルセンタービル 2F

TEL：03-6452-2705